



宮崎 正史
金沢星稜大学 学長

みやざき・まさふみ氏

1947年生まれ
1984年 東京工業大学大学院総合理工学研究科
システム科学専攻博士課程単位取得後退学
1989年 広島女子商短期大学助教授
1993年 広島女子商短期大学教授
1998年 金沢経済大学(現金沢星稜大学)教授
2006年 稲置学園評議員
2007年 金沢星稜大学人間科学部長
2010年 金沢星稜大学副学長
2014年 金沢星稜大学学長
専門はシステム科学、コミュニケーション論

地域に学び、世界へ飛翔する人を育てる大学に

金沢星稜大学の母体である稲置学園は、1932年(昭和7年)に創設した北陸明正珠算簿記専修学校を起源としています。1967年(昭和42年)には、学園の「誠実にして社会に役立つ人間の育成」という建学の精神を掲げ、金沢経済大学が開学しました。その後、2002年に大学院を設置するとともに大学名称を金沢星稜大学と改め、新たな歴史をスタートさせました。

しかしながら、この頃から志願者の減少に歯止めがかからず、数年間はほぼ全入に近い状況が続きました。志願者数が最も減った2004年に、教職一体となって抜本的な教育改革と就職支援体制作りに着手しました。基礎学力と社会人基礎力を並行して強化するために、1・2年次の2年間にわたりこの二つを毎週学ぶ必修ゼミナールとしたほか、教育力を高める全学的なFD活動の定着と徹底した就職指導・支援により就職率が大幅に向上し、おかげで2006年には全入状態から脱出することができました。

さらに、2007年度に開設したスポーツ学科及びこども学科からなる人間科学部が、単科大学としてのこれまでの金沢星稜大学に新風を吹き込んでくれました。人間科学部は、地域の人々と協働して様々な地域課題や教育課題に取り組むフィールド演習を2・3年次の必修科目としています。それに呼応して経済学部も地域課題への取り組みを2年次のゼミナールに導入しました。

地域に学生を育ててもらおうと同時に地域に貢献できる「地域に根ざした大学」として、これらの取り組みを全学的地域連携プロジェクトに拡大していきたいと考えています。

多彩かつ徹底した就職支援制度

自立した職業人の育成は、開学当初から掲げている使命でもあります。その就職支援体制の一つが、2005年に開始したCDP(キャリア ディベロップメント プログラム)という課外授業の取り組みです。公務員や

税理士、教員等の難関試験突破を目指す学生を1年次から支援しています。特待生制度を設け、試験合格までスタッフによる手厚い指導を行っています。2015年度は、国家公務員や県・市の地方公務員、警察官、消防士等に延べ97人(短大合格者10人を含む)が、教員採用試験に27人が現役合格しました。

「就活力」を養う独自の就職支援制度もあります。上海やラジオストックへの洋上就職合宿クルーズ「ほし☆たび」や「24時間耐久就職合宿」、難関企業を目指す女子学生のための「星稜女子力MOON SHOT講座」等です。これらの企画の多くは3年次後期から集中的に開始されます。それまでは、エネルギーを学業や課外活動に注いでもらいたいためです。これらの制度の下で全国トップクラスの就職率を実現しています。2015年度の実質就職率(卒業者数に占める就職者数の割合、卒業者数480名)は94.2%でした。

本学では、学生の自主的活動にも積極的支援を行っています。「SEIRYO JUMP PROJECT」と呼ばれる制度がそうです。学生による企画を募集し、プレゼンテーション審査を経て採択されれば活動資金を支援します。現在、「オープンキャンパス活性化プロジェクト」、「障がい学生支援プロジェクト」等、14のプロジェクトが活発に活動しています。

新学部の設置

グローバルな視野で物事を考え行動できる人を育てるために、4年前に留学・語学研修・英語力向上の支援制度を設けました。毎年4名前後の学生が海外の大学に留学し、100名を超える学生が語学研修に出かけています。本学にも中国やロシア、カナダ、台湾、フィリピン等から留学生が訪れ、経済学部生として、あるいは本学の国際交流センタープログラム受講生として学んでいます。海外協定校は現在50大学余りありますが、さらに増やしていく予定です。

2016年4月には、グローバル人材育成を目的とする

人文学部国際文化学科が開設され、第1期生が新学舎「グローバル commons」で学びを開始します。

折しも世界は今、民族・文化・宗教・政治・経済の複合的対立による衝突やテロが至る所で発生し、混迷の度を深めています。対立の打開に向けて新たな叡智が求められています。

多様な文化の存在を認め、自文化との違いを尊重する異文化理解はその叡智の一つといえるでしょう。人文学部国際文化学科は、そうした異文化理解に基づいて世界を冷静に見据える視座と、自文化への誇りを持って世界の人々と協働できる人材を育てていきたいと考えています。

新学部の特長は4つあります。1つ目は、完全クォーター制の導入。短期集中授業による学習効果と協定校との間で留学時期の柔軟な対応をするためです。2つ目は、ステップアップ方式による英語力強化プログラム。3つ目は、1年次の第4クォーターから随時留学を開始する早期留学制度。学生達がフレッシュな感覚で受け止めた異文化原体験を、宗教学・比較文化学・文化人類学等の学修を通じて洗練することにより、文化と宗教、文化と社会及び異文化間の様々な関係理解をより深めることができると考えるからです。4つ目は、3年次以降の専門分野の授業が原則として英語で行われることです。「比較文化学系」、「観光学系」、「英語学系」の3分野で構成され、いずれもグループディスカッション主体の少人数で行われます。

本学は、2017年4月に創立50周年を迎えます。その年の秋に記念事業を企画していますが、その時期は人文学部の第1期生が留学を終えて帰国する頃でもあります。

留学の成果報告とともに、海外協定大学の関係者を招き交流イベントやシンポジウムも開催したいと考えています。人文学部をはじめとする本学のグローバル化への取り組みを社会に、そして世界にアピールする良い機会になるでしょう。

